

平成27年度 教育事業実施報告

- 1 事業名 「ジュニアチャレンジ淡路島一周」
- 2 期 日 平成27年8月16日（日）～23日（日） 7泊8日
- 3 募集定員 16名
- 4 参加者 20名（参加申込者21名、参加取消者1名）
- 5 参加者内訳 小学5年生9名、6年生11名
（男子15名、女子5名）
（南あわじ市7名、洲本市3名、淡路市3名、神戸市1名、西宮市1名、加古川市1名
大阪府1名、京都府1名、三重県1名、高知県1名）

6 実施プログラム

日時		活動内容	宿泊場所	移動距離
8月16日（日） 天気：曇り 最高気温： 28.4℃	9:00～9:20	受付（交流の家）	南あわじ市伊加利公民館	16.4km
	9:20～9:30	スタッフ紹介、アンケート実施		
	9:30～10:20	仲間づくり（参加者対象）		
		保護者説明会（保護者対象）		
	10:30～11:00	出発式・出発		
	17:00	到着（南あわじ市阿那賀地区）		
	17:30～19:00	入浴（ゆとりっく）・夕食		
	19:00～20:00	まとめ		
	21:00	就寝		
8月17日（月） 天気：曇り時々雨 最高気温： 30.6℃	4:00～5:00	起床・準備	洲本市立都志小学校	23.9km
	5:00～15:30	出発・移動・到着		
	15:00～17:00	入浴（ゆーゆーファイブ）		
	17:00～18:00	まとめ		
	18:00～19:00	夕食		
	20:30	就寝		
8月18日（火） 天気：晴れ 最高気温： 30.0℃	4:00～5:00	起床・準備	民宿 さざ波荘・平林荘	28.0km
	5:00～16:15	出発・移動・到着（1・3班）		
	～18:10	到着（2班）		
	16:30～18:00	入浴（松帆の郷）（1・3班）		
	18:30～19:30	入浴（松帆の郷）（2班）		
	18:00～19:00	夕食（1・3班）		
	19:00～20:30	まとめ（1・3班）		
	19:30～20:00	夕食（2班）		
	20:00～20:30	まとめ（2班）		
	21:00	就寝		

8月19日(水)	4:00～5:00 5:00～16:00 天気:雨 最高気温: 25.5℃	起床・準備 出発・移動・到着(1・3班) 到着(2班) 入浴 夕食 就寝	いこいの宿 津名ハイツ	28.8km
8月20日(木)	6:30～ 7:00～7:30 天気:曇り 最高気温: 29.6℃	起床 朝食 まとめ 昼食 フリータイム 夕食 就寝	いこいの宿 津名ハイツ	0km
8月21日(金)	4:00～5:00 5:00～16:10 天気:曇り 最高気温: 29.7℃	起床・準備 出発・移動・到着 まとめ 夕食 入浴(エトワール生石) 就寝	洲本市立由良公民館	25.8km
8月22日(土)	4:00～5:00 5:00～15:00 天気:晴れ 最高気温: 30.4℃	起床・準備 出発・移動・到着(3班) 到着(2班) 到着(1班) 夕食・入浴 就寝	国立淡路青少年交流の家	29.6km
8月23日(日)	5:00～6:00 6:00～7:20 天気:晴れ 最高気温: 29.6℃	起床・準備 出発・移動・到着(1～3班) 朝食・退所準備 全体まとめ 昼食・休憩 報告発表会・閉会式		

※最高気温は、気象庁発表のデータを記載(8/16・8/22・8/23:兵庫県「南淡」、8/17～8/20:兵庫県「郡家」、8/21:兵庫県「洲本」)

- 7 プログラム内容 小学校5・6年生を対象に、初めて出会った仲間と約一週間かけて、公共施設や民宿等で寝食を共にしながらの淡路島一周踏破という大きな挑戦を通して、仲間と協力することを学ぶとともに、人間としてのたくましさを育むために、以下のようなプログラムを実施した。

【第1ステージ:技術習得と目標設定・仲間作り】

8月16日(日):出発式、国立淡路青少年交流の家→南あわじ市阿那賀地区(16.4km)
宿泊:伊加利公民館

8月17日(月):南あわじ市阿那賀地区→洲本市都志地区(23.9km)
宿泊:都志小学校

淡路島一周と踏破するために必要な技術(読図、ルート探索、現在地把握、ペース、休憩の取り方等)を習得するとともに、この事業に参加するに当たってのグループや自分の目標を設定する。



【第2ステージ：信頼関係の構築とチーム作り】

8月18日（火）：洲本市都志地区→淡路市野島地区（28.0km）

宿泊：民宿

8月19日（水）：淡路市野島地区→淡路市志筑地区（28.8km）

宿泊：いこいの宿 津名ハイツ

グループや自分の目標を達成するために、身につけた技術を使い、グループ内で起きた問題・課題をグループで解決する。さらに、互いに信頼関係を築きながらチーム作りを行う。





【第3ステージ：前半のふりかえりと目標の再設定】

8月20日（木）：ふりかえりと休息、野外活動プログラム

宿泊：いこいの宿 津名ハイツ

今までの活動をふりかえるとともに、新たにグループや自分の目標を再設定し、参加者全員が一体となって取り組むような動機付けを行う。

【第4ステージ：ラストチャレンジ】

8月21日（金）：淡路市志筑地区→洲本市由良地区（25.8km）

宿泊：由良公民館

8月22日（土）：洲本市由良地区→国立淡路青少年交流の家（29.6km）

宿泊：国立淡路青少年交流の家

最後に今回のコースの中で、最も長く、最も起伏のあるコースにチャレンジする。



【第5ステージ：全体のまとめとこれからの目標設定】

8月23日（日）：全体のまとめ、宣言文の作成と発表、閉会式

「チャレンジしたことや、がんばったこと」、「自分のことについて、気づいたこと」、「グループのことについて、気づいたこと」、「これから家や学校に戻ってがんばっていきたいこと」についてまとめ、宣言文を作成し、保護者の前で発表する。

8 広報の方法

南あわじ市教育委員会と連携し、南あわじ市「わんぱく塾」の一環として南あわじ市内の全小学校5、6年生児童に対してチラシを配布した。また、淡路島内の洲本市・淡路市の全小学校5、6年生児童に対してチラシを配布した。また兵庫県内及び徳島県内各小学校に募集要項を配布するとともに、当所HPを通じて広報を行った。

事業に関する取材を各種メディアに依頼し、新聞2社と地元ケーブルテレビより、取材を受けた。また、民間の野外教育団体が運営する情報サイト「キャンプ KANSAI」のホームページにも募集内容を掲載して広報を行った。

事業期間中においても、各種メディアの取材を受け、地元ケーブルテレビ2社と新聞5社の取材を受け、Yahoo ニュースにも掲載された。

9 参加者の声 (最終日に書いた「私の宣言文」より)

- ・毎日反省点などをきちんと話していたからこそ、ゴールできたと思う。
- ・ジュニアチャレンジ淡路島一周に挑戦する前より、何事も積極的になった。
- ・歩くのが速くて後ろの人が遅れてしまったけど、次の日に僕はみんなのペースに合わせた方が効率よく歩けることを思い付き、みんなのペースに合わせたら後ろの子が遅れずについてこれてよかった。
- ・人のことを考えられるようになりました。自分だけではなく、相手のことなどを考え行動できるようになりました。
- ・仲間を大切にしていきたいです。淡路島を一周して仲間の大切さを学びました。学校などでも仲間を大切にしていきたいです。こんなに仲間の大切さを学べたのは淡路島を一周してはじめてです。どんなときでも言えて話せるのが仲間なんだと思いました。
- ・今回152.5kmを歩いていく中で、班とは何か、仲間の大切さなどが分かって良かった。最初はどうか心配だったけど、この三班の一員で本当に良かったし、完歩できて本当にうれしい。
- ・自分の足でここまで歩けるんだなあと思った。
- ・体をよく鍛えたので、これからの生活やスポーツにいかして活躍などしたいです。沼島と兵庫県一周したいです。
- ・自分のことについて気づいたことは、一つのことに集中してがんばったら、やりとげられるということです。淡路島を一周歩くということではいろんな人と協力してがんばって歩きたかったので、ふだんでもがんばろうと思ったことは最後まであきらめずにがんばりたい。
- ・毎日、目標を立てて、それを達成するのが楽しかったです。あいさつの目標を立てたとき、はずかしくて言えなかったけど、みんなをまねしてだれでもあいさつができるようになりました。

10 担当者所見

本事業は、「淡路島一周踏破という大きな挑戦を通して、仲間の大切さや協力することの重要性を学ぶとともに、人間としての強さやたくましさを育む。」ことをねらいとして実施した。日々のふりかえりや最終日に書いた「私の宣言文」の内容を見る限り、「仲間の大切さや協力することの重要性を学ぶとともに、人間としての強さやたくましさを育む。」という目的は概ね達成できたと思われる。

できるだけ参加者に対する指導・介入は行わず、子どもたちが自ら考え、意見を出し合い、行動できるように働きかけた。日々のふりかえりの中で、最初は「一部の人と話していて、それ以外の人とは、あまり意見を聞けなかった」「あまり自分の気持ちを班の人に伝えることができなかった」「歩くことに集中してあまり意見を伝えることができなかった」というように、なかなか自分の意見を言えなかった。しかしながら、信頼関係を構築する過程で徐々に自ら考え、自分の意見を言ったり、他人の意見を聞いたり、他人を気遣う言葉が見られるようになった。また話し合いの中で何かを決める時は、多数決ではなく、全員が納得するまで話し合っていた。

また参加申込の作文の中で、淡路島のことを知りたいと内容が多かった。そこで、コース途中に文化施設など計21箇所のチェックポイントを設定し、そこを必ず通るようにした。そして日々のふりかえりで兵庫県淡路県民局が作成した小学生向け学習副読本「ふるさと淡路島」を参考に淡路島の歴史や文化などを学びながら進んだ。淡路島外からの参加者はもちろん、淡路島内からの参加者も淡路島の歴史や文化を知る良い機会となった。

さらに今回は事前研修を行うなど、ボランティアスタッフの成長にも焦点を当てた。最初は安全面や技術習得の場面以外はできるだけ参加者に対する指導・介入は行わない指導

方針に対して戸惑いも見られたが、職員やボランティアスタッフ同士で打合せをし試行錯誤する中で、参加者が成長する姿を見て、参加者を信じて任せることにより、主体的な学びが得られることを感じていた。

ボランティアスタッフからは「今回のジュニアチャレンジ淡路島一周ではできるだけ参加者に対する指導・介入は行わないという方針で最初は不安だったが、参加者の気持ちを聴き、信じて待つと、参加者は今まで私が経験したことがないほど成長していった。参加者を信じて待つことがとても重要だと分かった。」という言葉が聞かれた。

また今後の検討事項として、以下の2点を挙げる。

1) スタッフ事前研修の充実

今年度はじめてボランティアスタッフの事前研修を本番二週間前に日帰りで行った。スタッフ同士のコミュニケーションを図ったり、参加者に対する接し方を確認するなど、本番に向けての成果を上げることができた。しかしながら、安全管理や参加者に対する指導についての研修を十分には行うことができなかった。次回以降は早めにボランティアスタッフを確定し、宿泊での研修を検討するなど、事前研修の内容を充実させる必要がある。

2) 前半のふりかえり及び休息日のプログラム

事前研修同様に、今年度から5日目に前半のふりかえりの時間と休息の日を設定した。参加者は前半のふりかえりを終え、それほど疲労は見られず宿泊施設で過ごしたが、自由時間内に怪我につながるようなヒヤリ・ハット事例が見られた。怪我は自由時間に発生することが多く見られることから、参加者の疲労の具合を見ながら、自由時間の設定や指導体制等を検討していく必要がある。